

住吉っ六人

大阪市住
住吉大

神輿

吉
世話

大阪
神輿

ご挨拶

畏くも天皇皇后両陛下におかれましては、
「二〇二五年日本国際博覧会（略称 大阪・関西
万博）」開会式の御臨席に際し、当社に万博成
功祈願の幣饌料を御下賜遊ばされました。

四月十一日に市内ホテルにて別所侍従長より
幣饌料を拝受、直ちに参籠し、翌十二日、開
会式に先立つ午前十時、臨時中祭として天皇
皇后両陛下行幸啓幣饌料御下賜奉告祭を斎行
し、謹んで御神前に幣饌料を奉献致しました。

大阪で万博が開催されるのは二度目であり、
前回万博が開催されたのが昭和四十五年で、
私は当時三年目の若手神職でした。住吉大社
は、大阪のおまつりに御田植神事が参画する
など協力をし、高度成長期という時代背景も
あり、大阪だけではなく日本全国が大いに盛
り上がった記憶がございます。



今回は住吉の神様がお守りされる大阪湾に囲
まれた会場で、万博招致成功祈願祭も当社で
行いました関係から、可能な限りの協力を致
しております。まず、万博史上初となる神前
結婚式を「日本の結婚式」として世界に披露
致しました。次に、EXPOアリーナでの「大
阪ウィーク春の陣」では、大阪府下約四十団
体のだんじり・太鼓台・神輿が一堂に集う行
事に、大神輿の奉昇と共に、住吉踊、御祓講
獅子が出演するなど積極的に参画致しており
ます。今回の万博が盛会となり、世界が平和
で日本中が活性化することを願っております。

さて、住吉大社は横綱発祥の由緒があり、平
成二十五年から三月大阪場所前の日本相撲協会
公式行事として、第一本宮前で横綱の奉納土俵
入り（手数入り）が行われております。そして、
本年三月一日には新横綱となった豊昇龍智勝関
が奉納されました。

豊昇龍関は三月場所におきまして当社境内を
宿舎とする立浪部屋所属の力士で、新弟子の
頃は非常に小柄でしたが、当社境内の土俵で
稽古を重ね立派な体格となり、出世を重ねて、
ついに念願の横綱となり、横綱起源の本殿前
で奉納土俵入りをするに至りました。まさに
住吉の大神様の御神徳の発揚を感じる瞬間で
ありました。今後の横綱の益々のご活躍を祈
念致します。

住吉大社 宮司

神武磐彦
こうたけい わひこ

志賀神社・若宮八幡宮・御文庫3件が新たな文化財に指定



摂社志賀神社本殿

木造 三間社流造 見世棚
本瓦葺 建築面積8・6㎡

17世紀後半の建築と見られ、境内唯一の三間流造の社殿である。摂社大海神社の傍に鎮座し、伊弉諾尊の禊祓に際し、住吉大神である筒男三神とともに出現された底津少童命・中津少童命・表少童命を祀る。摂社とは本社に次ぐ格式と扱いを受け、末社の上位に位置づけられる社で、当社では4社9座があり、大海神社(2座)、志賀神社(3座)、船玉神社(2座)、若宮八幡宮(2座)がこれにあたる。



摂社若宮八幡宮本殿

木造 一間社切妻造
本瓦葺 建築面積5・8㎡

享和2年(1802)の火災後、文化7年(1810)頃に再建されたものとみられる。扉絵には松と白い鳩4羽が描かれ「友寛齊蘭溪謹書」の落款がある。五所御前の南側に西面し鎮座し、祭神は応神天皇(誉田別尊)、相殿に武内宿禰を祀り、例祭日の1月12日には、湯立神樂を行っている。



御文庫

土蔵造2階建
本瓦葺 建築面積28㎡

住吉大神は文学の神としても広く信仰され、享保8年(1723)に大坂、京都、江戸の本屋仲間20名が、住吉大社に出版物を納める「蔵」を寄進する発願書を出したことが契機となり建築された。第一本宮の北側に建ち、写本・版本をはじめ貴重な奉納書籍約5万冊を保存する。

住吉大社の摂社志賀神社本殿(1棟)、摂社若宮八幡宮本殿(1棟)、御文庫(1棟)が新たに大阪府指定有形文化財(建造物)になりました。

令和7年3月24日付



横綱

豊昇龍関

住吉大社で初の手数入(土俵入り)

春場所(大阪場所)を前に横綱に昇進した豊昇龍関は、所属の立浪部屋が毎年春場所所で住吉大社を宿舎としています。そして、令和7年3月1日、横綱昇進後初の場所公式行事である手数入(土俵入り)を住吉大社にて奉納しました。奉納後、住吉大社と大変縁の深い豊昇龍関にインタビューしました。



横綱昇進、おめでとうございます。まず、毎年春場所の宿舎としてしている住吉大社へのお気持ちをお聞かせください。

ありがとうございます。住吉大社には、入門以来ずっと温かく迎えていただき、力士としても人間としても成長できる大切な場所だと感じています。この厳かな環境で心を整え、毎年春場所を迎えられることに、心から感謝しています。こうして横綱となったのも、住吉大社のお力添えあつてのことだと思っています。

土俵入りを終えた今のお気持ちはいかがでしょうか？



とても引き締まった気持ちです。記者会見でも触れましたが、初めて番付に載ったのが春場所で、横綱として大阪に帰ってきた。いろいろな思いが春場所にはあり、ここでの思い出は宿舎をお借りしてきた住吉大社と共にあります。この住吉大社で横綱昇進後、初の場所前公式行事である土俵入りを奉納することができました。



横綱発祥の地であり、相撲の神様である住吉大社の神前で奉納することで、横綱としての覚悟を新たにすることができました。土俵入りは神事でもありますので、一挙手一投足に心を込めて奉納しました。住吉様に恩返しができたという思いと共に、改めて横綱という地位の重みを実感しています。



今後、横綱としてどのような姿を見せていきたいと考えていますか？

入門した時から思っていた横綱になるという目標をようやく実現しました。昇進直後はうれしい気持ちでいっぱいでしたが、横綱は強さだけでなく、品格や立ち居振る舞いも求められる責任ある立場ということを、日に日に実感しています。これからは結果に一喜一憂するのでは

なく、誰もまねしないことを目標にして、これが豊昇龍だというところを見せられるような力強い横綱になりたい。そして、常に堂々と、皆さんに応援していただける横綱を目指して精進していきます。



最後に、ファンの皆さま、そして住吉大社を訪れる方々に一言お願いします。

いつも温かいご声援を本当にありがとうございます。住吉大社という素晴らしい場所です。心身を鍛え、力士としてさらに成長していきます。これからも一番一番、心を込めて取り組みますので、どうぞ応援よろしくお願いします。

（聞き手 住吉大社 権宮司 岡康史）



神前結婚式を大阪・関西万博で奉仕

日本の結婚式

心を結ぶ 絆を結ぶ



令和七年四月十九日、二〇二五年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の会場において、二組の神前結婚式を奉仕いたしました。世界中から人々が集う万博という舞台で、日本の精神や婚礼文化を広く伝える貴重な機会となりました。

この度の神前結婚式は、日本の伝統文化の継承と世界への発信を目的として行いました。「心を結ぶ絆を結ぶ」をテーマに掲げたのは、夫婦の誓いだけでなく、家族や地域社会とのつながりを意味しています。

この企画には全国から九十七組の応募があり、選ばれたのはアメリカ人の新郎と日本人の新婦による国際カップルと、万博に熱い想いを持つ日本人カップル。会場に設けられた式場へは、雅楽を先導に花嫁行列を行い、多くの来場者から温かな祝福が贈られていました。初めて見





住吉大社吉祥殿 石橋 篤

る紋付袴と白無垢の姿に、「日本の結婚式は美しい。家族とのつながりを感じる。」と語る海外の来場者もおり、国を越えた共感が生まれたと感じています。

神前結婚式は明治時代に広まりましたが、その根底には古来より続く「神を敬い祖先を崇ぶ」精神が生きています。今回の神前結婚式は、未来社会を表現する万国博覧会でも日本の家族のあり方が世界の人々の心を打つことを示したものであり、文化の交差点として新たなご縁を生んだ場となりました。

住吉大社ではこれからも神と人、人と人とを結ぶ文化を守り伝えてまいります。今回、新たな人生を歩み出した二組のご夫婦の末永い幸せを、心よりお祈り申し上げます。

万博会場に於いて大神輿を奉昇



住吉大社では五月九・十日、大阪・関西万博EXPOアリーナ「Mat suri」に於いて大神輿の展示と奉昇を行いました。

この催しは自治体参加行事、大阪ウィーク『大阪の祭！』EXPO 2025春の陣の一環で、大阪府下行政区ごとの祭が一同に集う催事です。住吉大社は住吉区・住之江区の代表として大神輿が参加いたしました。

当社の大神輿は明治十四年奉納で、高さ約三メートル、幅約一・五メートル、目方は七〇〇貫(約二・六トン)とされ、摂河泉随一と謳われた大神輿です。神事以外では令和元年六月に開催されたG20大阪サミット会場に於いて展示・披露された事があります。この度の催しでは実際に奉昇を行うことから、長さ十一メートルの輦の運搬や大人数の輿丁を移動させる必要があります。担当者は連日神輿会や区役所と調整を図



り、無事に万博会場に大神輿を設置させることができました。

奉昇当日は三〇〇人の輿丁と住吉踊・御祓講獅子の子供らがバス六台に分乗し住吉大社を出発。会場には大阪府下のだんじりや太鼓台が勢ぞろいする中、大神輿は特別な存在感を示します。ステージ上で住吉踊と獅子が舞い、伝統文化を担う子供たちの姿が一際注目されていました。「べえら、べえら」の掛け声と共に大神輿が登場すると、拍手が手拍子に代わります。幹事長の合図で大神輿が天高く差し上げられると、会場からは万雷の拍手が沸き起こりました。奉昇後には、互いを讃え合う他団体との交流も見られ、参加した輿丁や子供たちは特別な一日を過ごすことが出来ました。

今回の大阪ウィークへの参加は、地元地域の祭に対する誇りと、祭を愛する者同士の相互理解へと発展しました。万博への参加が、次の時代の祭を担う若者たちの一助となることを期待します。

住吉大社 権宮司 岡康史

第二回

「歌枕の世界」

堺と住吉大社

摂泉堺郷土史研究所長・元堺市博物館学芸員 吉田 豊

住吉と歌枕

歌枕^{うたまくら}とは、古くから和歌に詠まれた景勝地などの名所、あるいは詠まれるのにふさわしいと思われた名所を指す言葉であり、本稿ではそれらの名所地名を比較していきたい。

住吉神は海神として当初から現在に至るまで著名であるが、時代とともに和歌神の性格も帯びられる。それに伴い住吉大社とその周辺は、和歌に詠まれる名所である歌枕の地としても広く知られるようになる。

とはいえ、歌枕の地は全国に数多い。そのなかで住吉は、古代からどれくらい知られていたのだろうか。その質の高低を他の歌枕と比べるのは基準をどうするのかに始まってかなり大変だが、数量の多少はある程度調べられているだろうと思った。しかし、管見の限りではほとんどないので、歌枕が入って

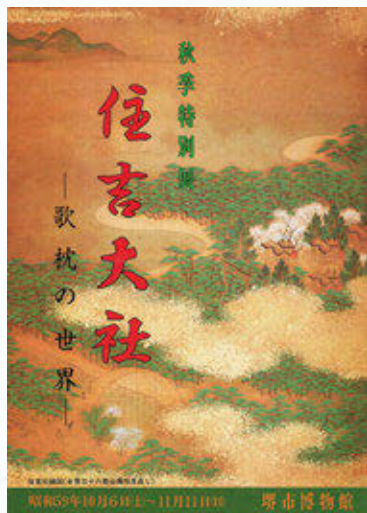
る和歌の数を調べて数の多少で順番を付けてみたのが本稿である。あくまでも数の多少であり、内容の高低ではないことを、最初にお断りしておきたい。

冒頭から少し個人的なことで恐縮だが、私が堺市博物館に入って最初に企画担当した特別展は、堺の開口^{あぐち}神社と平野の杭全^{ひらの}神社の展覧会である（一九八二年春）。開口の神は、住吉神の子神として「住吉大社神代記」に記されている。

そんなこともあり、次に企画担当した特別展が「住吉大社―歌枕の世界―」である（一九八四年秋）。言い訳になるかもしれないが、全国各地から数多くの展示品を借用・展示させていたが、無事に返却することを当然ながら第一としたため、その前後にいくつかの小文を書いたが肝心の歌枕についてはまとまった文章を書いてこなかった。

そのため随分後の二〇一八年、『歌神と古今伝受』という本に「海神から和歌神へ」とい

う拙稿を書かせてもらった時に、歌枕についても少し考えてみた。本稿は、その拙稿の該当部分を取り出し、増補したものである。



住吉社頭図（女房三十六歌仙画帖見返し）
堺市博物館昭和59年度秋季特別展「住吉大社—歌枕の世界—」リーフレットより

万葉集にみる地名

「万葉集」の地名について、樋口和也『萬葉集地名歌総覧』（近代文芸社、一九九六年）に収載の一七七二首とその索引などを参考に、『新編国歌大観』本によって数えあげた。飛鳥・奈良時代ころはまだ、和歌に歌われる名所だけを歌枕と呼ぶことはなかったらしい。特に「万葉集」には、名所地名だけでなくいわゆる生活地名も多い。しかしそれらは区分しにくいので、基本的には地名全般を見ていった。

「万葉集」で歌われている和歌の総数は、四五一六首とも四五三六首ともされる。本稿では、「万葉集」に限らず和歌本体にある地名の数だけを数えており、題詞・詞書などにだけ記されている地名は数えていない。「万葉集」

の場合特に、題詞や左注にだけ地名が書かれたものも多いことに留意されたい。

一番は、「吉野」（大和国）五八首である。このうち「よしの」二七首、「みよしの」三二首、どちらも共に詠んだもの一首である。関連地名として「秋津」六首などがあるが、これらは含めない。

二番は、五六首の「大和」である。大和国（現在の奈良県）を指す他に、「大和島」とか「大和歌」といった使われ方で日本全般を示す。しかし平安期には二一首ほどに減り、その後も少なくなるようである。

三番が、「奈良」（大和）で五五首ある。これも平安期には四〇首ほどに減り、その後も少なくなる。

四番が同じく大和国の「春日」で、五三首ある。関連地名として「三笠山」一〇首（「春日」と共に詠んでいる六首を除く）などがあるが、これらは含めない。

五番が「難波」（摂津）で、四三首ある。「難波潟」「難波津」「難波の海」「難波の宮」などが多い。

六番が「住吉」（摂津）で、三九首ある。「住吉の岸」「岸のはにふ（黄土）」「住吉の浜」などが多い。「住吉の松」が多くなるのは、平安時代からのようである。

これらの次に、「明日香」の三六首、「佐保」の三五首、「初瀬」の三四首といった大和の歌枕が続く。「吉野」と並ぶ大和南部の歌枕として、百人一首などでも知られる「竜田」は一八首である。

以上全てが、平城京のあった大和国と、難波宮があった摂津国の地名である。

一方で「万葉集」には、編纂に関わった大伴

家持が越中国守として赴任中の歌が九〇首以上あることや、東国出身の防人歌も八〇首以上収録されており、関連地名が見られる。あるいは、松浦佐用姫の物語で知られる「松浦」（肥前）が二〇首ほどあったりする。

平安時代和歌集の歌枕

万葉の時代に続く平安時代の歌枕（名所地名）について、主に『平安和歌歌枕地名索引』（ひめまつの会編、大学堂書店、一九七二年）を参考に数えてみたい。この本に採録されている歌集は、平安時代に編纂された勅撰集（八代集）・私撰集・百首歌・歌合・私家集の計七百余集であり、そこからの採録歌数は二万数千首であるという。

一番が「吉野」で九四六首。そのうち「よしの」五五九首、「みよしの」三八七首である。

二番が「住吉」で六四九首。「すみのえ」一七八首、「すみよし」四七一首である。

三番が「難波」で五三八首。「難波」四九一首、「津国難波」四七首である。

四番が「逢坂」（山城境、近江）で四四九首。「逢坂関」二二三首、その他「逢坂山」など二一六首である。

五番が「春日」で三六七首。関連地名として「三笠・三笠山」二一六首（どちらも共に詠んだもの八首）などあるが、今回は含めない。

六番が「竜田」（大和）で、三三九首である。これに続くのが「志賀」（近江）、「東」（東国）、「須磨」（摂津）、「和歌浦」・「玉津島」（紀伊）、「明石」（播磨）、「伊勢」（伊勢）、「高砂」（播磨）、「宮城」（陸奥）、「明日香・飛鳥」（大和）などである。

平安時代名所絵と歌枕

撰関期を中心に平安時代に名所絵として描かれた名所を、家永三郎『上代倭絵全史』（改訂版、墨水書房、一九六六年、一六二頁）がまとめている。倭絵（大和絵）であり、世俗画でない仏画の関係は除かれている。

家永本で場所が特定できる最も早い例は、貞観十一年（八六九）から十八年ころに描かれ、以下のように「古今和歌集」二九三番・二九四番に収録された「竜田」図屏風である。

〔詞書〕

二条の後の春宮のみやす所と申しける時に、御屏風にたつた河にもみちながれたるかたをかけりけるを題にてよめる

〔作者1〕そせい（素性法師）

もみぢはの ながれてとまる みなとには
紅くれない 深き 浪なみや立つらむ

〔作者2〕なりひらの朝臣（在原業平）

ちはやぶる 神世もきかず 竜田河たつたがわ 唐紅からくれない
に 水くくるとは

歌に詠まれた名所絵の数を数えてみたい。

第一位が「吉野」で一八点。このうち「吉野山」一六、「吉野川」二である。

第二位が「住吉」で一六点。浜・松一四、神社二である。

第三位が「春日」・「春日野」で一三点。春に若菜摘む女性の歌を伴う名所絵が多いが、春日祭や冬の松などもある。

次に四位グループで、八点が描かれていたのが、「志賀」・「志賀山」（近江）、「逢坂関」（近江）、「稲荷」・「稲荷山」（伏見稲荷・山城）、「須磨」・「須磨浦」（摂津）であり、「逢坂」がここに入る。

七点が、「塩竈浦」・「浮島」(陸奥松島)、「大井川」(山城)、「嵯峨野」(山城)である。

六点が、「しかすがの渡」(三河)、「小倉山」・「亀山」(山城)である。

五点が、「鏡山」(近江)、「宇治網代」(山城)、「佐保山」・「佐保川」(大和)、「長柄橋」(摂津)、「難波」(摂津)、「高砂」(播磨)、「天橋立」(丹後)である。

「難波」は五点であるが、同じく五点の淀川に架けられた「長柄橋」を含めれば一〇点になり第四位となるが、今回は含めない。

四点が、「浅香沼」(陸奥国安積郡)、「こゆるぎの磯」(相模)、「白山」(加賀・越中・越前・飛騨)、「田子浦」(駿河)、「竜田」である。

これらを国別で見ても、九か所以上あるのが北から陸奥、伊勢、近江、山城、大和、摂津であり、多数描かれている。

次は各二、三か所で、下野、信濃、相模、駿河、三河、河内、紀伊、播磨である。畿内、次いでその周辺、次に東国(東日本)が多いことが分かる。

一か所だけ描かれている出羽、常陸、武蔵、甲斐、遠江、越前、和泉、丹波を含めても同様の傾向であり、九州・四国など西日本は描かれていない。

これらの名所絵そのものは建物に付随していたものが多く、現存するものは一つもない。この後、中世においては火災などでも持ち出せて残りやすいこともあったのか、絵巻物がかなり残っているが、そのなかの一部などに名所絵が描かれている。



西行物語絵巻(模本・住吉社頭部分)天保15年(1844)写 東京国立博物館蔵
大阪市立美術館編『特別展住吉さん—住吉大社1800年の歴史と美術—』2010年より
13世紀後半とされる絵巻の模写本で、中世名所絵として貴重

百人一首と歌枕

百人一首は、歌人の藤原定家^{ていけ}が京都の小倉^{おぐら}山荘で選定したとされる和歌集であり、小倉百人一首とも呼ばれる。選定期として、文暦二年(一二三五)にはほぼできあがっていたとされる。

「ここぞ三首に歌われているのが「難波」と逢坂」である。

二首が、「宇治」・「竜田」・「吉野」・「高砂」である。

一首に歌われているものには、「春日」・「住吉」(住の江) などがある。

地名比定が難しいものもあるが、およそ四〇首に地名がある。以下に、北から南の順に概略を記す。

まず畿内より東では、宮城県「末の松山」・「雄島」・福島県他「陸奥」・茨城県つくば市「筑波嶺」・静岡県「田子の浦、富士」・滋賀県大津市「逢坂の関」・逢坂山、米原市「伊吹」である。

次に畿内で、京都市「小倉山」他、宇治市「宇治の川」他、木津川市「みかの原、泉川」、大阪市「難波潟」・「難波江」・「住の江」、高石市・堺市西区「高師の浜」、神戸市ほか「須磨」・「有馬山、猪名」、奈良市「春日、三笠の山」・「奈良の都」、橿原市「香久山」、桜井市「初瀬の山」、斑鳩町「竜田川」・「三室山」、吉野町「吉野の里」・「み吉野の山」・「大峯」(詞書のみ) である。

次に畿内より西で、京都府「大江山、生野、天の橋立」、兵庫県「高砂の松」・「淡路島」ほか、和歌山県由良町(丹後由良説も)「由良の門」、鳥取市「因幡の山」である。

以上から、百人一首には五畿内(山城・大和・摂津・河内・和泉)とその周辺を詠んだものが大半であることが分かる。それに比べて、北日本・東日本はほとんどなく、西日本に至っては一首しかなく、九州・四国は全くない。

この傾向は、全国から幅広く採取している「万葉集」以外、古代・中世の和歌集全般に見える傾向であり、前述した平安時代の名所絵にも見られるところである。

中世勅撰集の歌枕

延喜五年(九〇五)以後に編纂された「古今和歌集」から永享十一年(二四三九)編纂の「新続古今和歌集」までの勅撰集(二十一代集)三万三六四一首ほどに収められている和歌のうちに見られる歌枕について、吉原栄徳『和歌の歌枕・地名大辞典』(おうふう、二〇〇八年)などによって見てみたい。

平安時代の八代集(全九四二五首ほど)までは前項と重複するので、それ以降の文暦二年(一二三五)、百人一首と同じ頃に完成した「新勅撰和歌集」からの十三代集(二万四二五首ほど)について、地名を詠んでいる和歌数の順番でみていく。

一番が「吉野」で、二九二首ほどある。そのうち「よしの」一七一首、「みよしの」一二一首ほどである。

この時期の都は平安京であり、「都」(山城など)が詠まれている和歌は二九二首ほどあり地名数のうえでは「吉野」と共に一番であるが、これには名所地名よりも生活地名としての用例が多いように思われる。

三番が「難波」で、一九八首ほどある。そのうち「なには」一八六首、「つのくにのなには」一二首ほどである。

四番が「逢坂」で、一五四首ほどある。

五番が「和歌浦」(紀伊)で一四三首ほどある。関連地名として「玉津島」が一九首ほどがあるが、これは含めない。

六番が「住吉」で、一四〇首ほどある。そのうち「すみのえ」二一首、「すみよし」一一九首ほどである。

七番が「春日」で、一二三首ほどある。関連地名として「三笠山」が八〇首ほどあるが、これは含めない。

八番が「竜田」九一首ほどで、「志賀」（滋賀、近江）、「明日香・飛鳥」、「伊勢」、「須磨」、「東」（東路など）などがそれに続くと思われる。

吉野・住吉・難波

歌枕（名所地名）について、『新編国歌大観』所収の和歌約四五万首の全てではないが、時代順に「万葉集」、平安時代和歌集、平安時代名所絵、百人一首、中世勅撰集（十三代集）の五項目で総合して数えてみたい。

第一位は「吉野」（大和）であり、百人一首の三位を除き全てで第一位である。

次に、「住吉」（摂津）と「難波」（摂津）が、ほぼ同列で総合第二位（三位）である。「住吉」に比べると「難波」には歌枕のイメージがあまりなく、意外な感じもする。

次に、「春日」（大和）と「逢坂」（近江）が、ほぼ同列で第四位（五位）である。「春日」は、単独でも総合一〇位前後には入るかもしれない。「三笠・三笠山」という関連地名を含めないこととしたためなどにより、前回拙稿「海神から歌神へ」（二二九頁）での第三位とは順位が異なることになった。「住吉」の第二位は変わらない。

以下は計算していないが、たぶん「竜田」（大和）が第六位であり、「志賀」（近江）、「須磨」（摂津）、「和歌浦」（紀伊）などが続くものと思われる。

「住吉」・「春日」には神・神社のイメージが

強い。江戸時代までの日本の宗教の主流は神仏習合であり吉野の蔵王権現もそうである。一方で、四天王寺や東大寺・興福寺などの寺院が和歌に詠まれることは少ない。おみくじは江戸時代まで僧侶・寺院による漢詩が中心であり、明治維新の神仏分離により神社で和歌によるものも作られるようになったと言われているのも、類似する文化的な相異から来るものだろう。

題詞・詞書などに記された地名を含めていなかったり、名所地名だけでなくいわゆる生活地名を一部含めていたり、和歌と名所絵を同列に扱ったり、あるいは検索した和歌の数が多いため見落としているところもあると思われるが、一位から五位までの順番はたぶん変わらないと思う。何かあればご教示いただき、より正確なものにしていきたい。

歌枕などの地名としての「さかひ」「堺」については、後稿としたい。

●主な参考文献

『新編国歌大観』第一巻、勅撰集編・索引、角川書店、一九八三年
片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増補版』笠間書院、一九九九年
吉田豊「海神から歌神へ―住吉・堺・和歌の浦―」（鶴崎裕雄・小高道子編『歌神と古今伝受』和泉書院、二〇一八年）

心地よらざや

住吉っさん

桂米團治

人間国宝、桂米朝が住吉大社の神館で上方落語の『住吉駕籠』を演じたことがきっかけで始まった「升の市 住吉寄席」。毎回「すみよっさんには笑いの神様もおられたのか」と思えるほど、神館にお客様の笑い声が響き渡ります。今年は

なんと、桂米朝の生誕百年を記念して境内に「桂米朝顕彰碑」が建てられました。高井道弘名誉宮司ならびに神武磐彦宮司のご尽力、そして氏子の皆様のご厚意のお蔭と、篤く感謝申し上げます。



桂米朝顕彰碑

米朝の長男である私も神社大好き人間。すみよっさんへ最初に訪れた時の感動は忘れられません。「大阪市内にこれほど空気が澄んでいる所があったのか!」と。反橋を渡り、手水を使い、第一本宮から第四本宮までを順に廻るだけで心が落ち着くのです。その後、侍者社から若宮八幡宮へ向かい、龍神さんにも挨拶し、五所御前で五大力の石を探し、夫婦楠からは温かい氣をいただき、楠珪社で猫のお守りを受け、巳^みさんにも一礼し、ぐるっと一周。そして、清め塩を受けて帰るのが私の参拝コース。

でも、まだまだ摂社や末社が沢山あります。時間のある時は大海神社まで足を延ばしたり、初辰まいり(種貸社く楠珪社く浅沢社く大歳社)のコースを辿り、おもかる石で吉凶を占つたり……半日過ごしても飽きません。

実は住吉大社の創建は西暦211年なのだから。難波津で大陸との交易が始まったとされる頃まで遡るのです。日本史の教科書がはつきり伝えないところから、古代史研究者の間ではご祭神と歴史的人物の関係を解明しようという動きが盛んです。「第一本宮く第三本宮は航海の目印となるオリオン座の縦並びの三ツ星を表して

いるのではないか」とか、仲哀天皇が祀られていないことから「住吉三神は武内宿禰ではないか」などなど。

さまざまなロマンを秘めた住吉大社ですが、何より参拝するだけで身体がスキッとするのがいいですね。すみよっさんで心澄みよし。



桂米朝頭彰碑除幕式

秋津住吉神社

〔鎮座地〕

兵庫県加東市秋津
一一一三番地



当住吉神社は、通称の秋津^{あきつ}住吉神社で知られ、
ご鎮座の地は兵庫県加東市秋津です。

この地は、兵庫県中央部を流れる兵庫県最大の
河川、加古川の支流東条川流域で、上中下^{かみなかしも}と東西
に長い東条谷の東端です。昭和二十年代までは加
東郡上東条村秋津^{かみらじょうだち}でした。社殿は南西向きに建立
され、東条川流域を上流から守護する神社と位置
付けられています。

秋津の地名は、古くから良質の米を産出した土
地柄から、古代日本の美称『大日本豊秋津洲』^{おおやまと}に
由来すると伝わります。今日では、東条川流域は
全国的にも良く知られる優秀な酒米『山田錦』の
特産地です。



神社に関する資料は残っておらず創建もはっきりしません。現在の本殿は貞享四年（一六八七年）に再建された事が、棟札と階の欄干の柱頭擬宝珠に刻印の文字から判っています。本殿には控えめながらも墓股・手挟・内陣御扉の両側や脇障子に彫刻があり、彩色の施されていた名残が見受けられます。



神社には室町時代後期頃を起源とする風流踊ふうりゅうまわどりの雨乞い『百石踊』が氏子地域九カ村に伝わっていました。百石踊は早魃かんばつ時のみに不定期で演じた為、長い歳月の間でも回数は少なく、幻の神事芸能とも称され、昭和二十六年に農業用灌漑ダムが完成した事で自然消滅の如く衰退しました。その後、奇跡的に一カ村が復興を成し遂げ保存会を結成します。継承の功績が認められる事となり、昭和四十七年三月に『秋津百石踊』として兵庫県的重要無形民俗文化財の指定を受けました。

平成二十三年からは四月二十九日に『昭和の日奉祝・百石踊五穀豊穰祈願祭』として広く一般に公開し、稲作の豊穰と地域の繁栄発展を祈願しています。

秋津住吉神社 宮司 大喜多恵子



社務日誌抄

(令和六年二月から令和七年四月分まで)

令和六年(二〇二四)

十一月

一五日

助勢)。同総会、加藤岡権宮司出席。大阪市立真住中学校職場体験学習五名受入(翌日迄)。

一日 朔日祭、神武宮司以下奉仕。大鳥大社崇敬会設立総会並祝宴、神武宮司・岡権宮司出席、小山手権禰宜随伴。
二日 宮司以下参籠。
三日 明治祭(中祭)、神武宮司以下奉仕。
四日 五社秋季例祭、坂野権禰宜以下奉仕。
五日 壇使、高階禰宜・神武権禰宜・坂田社務員奉仕(奈良県橿原市・雲名梯川俣神社・畝火山口神社)。中堅神職研修(神宮道場)中野禰宜・宮寄権禰宜参加(九日迄)。

一六日

神宮田植。

六日 宮中献穀箱奉納奉告祭、(株)金剛組代表取締役会長 多田俊彦氏以下参列。淡路おみなゐの會、伊弉諾神宮宮司 本名孝至氏以下参拝。神社庁関係者大会、港住吉神社副総代長 赤野久雄氏表彰、神武宮司・岡権宮司・名村 小山手権禰宜出席。皇學館大学共通科目「人生と仕事」、小出権禰宜講師。近畿税理士会住吉支部献血奉仕活動境内使用。

一八日

東京都港区乃木神社宮司高山陽充氏参拝。九年母創刊一〇〇周年記念祝賀会、小出権禰宜講演。和歌の浦誕生一三〇〇周年記念大祭実行委員会ワークショップ境内使用。BS団会議、鈴木権禰宜出席。

六日

一九日

十八日会(石清水八幡宮)神武宮司出席、高階禰宜随伴。関西テレビ放送「newsランナー内コーナー」(兵動大樹の今昔さんぽ諸国漫遊記)取材撮影。神社庁教化委員会、岡権宮司出席。住吉住之江産業会主催優良従業員表彰式(吉祥殿)、岡権宮司出席。

七日

二〇日

海上交通安全祈願祭、岡権宮司以下奉仕。大阪市立大和川中学校職場体験学習七名受入(翌日迄)。神稜講秋季参拝旅行(大神神社)、加藤権宮司・武田権禰宜参加。(二財)住吉村常盤会旅行、小出権禰宜参加。住吉踊保存後援会會議、滝沢 小山手権禰宜出席。

九日

二二日

住吉警察署協議会、武田権禰宜出席。

一〇日

二二日

本殿清掃。特殊神饌調製。宮司以下参籠。

二二日

二二日

新嘗祭(大祭)、神武宮司以下奉仕。責任役員 小島康秀氏、御田講・蓬萊講講元 濱田孝氏、J A 大阪市代表理事組合 長 田中聡氏(公財)住吉名勝保存会理事長 高野伸生氏、市戎大國講講元 北正彰氏、津守家当主 津守亮太氏以下参列、住吉踊保存後援会奉仕。表千家同門会大阪支部七〇周年記念茶会、加藤権宮司出席。子供の読書推進プロジェクト 大阪市立図書館×住吉大社×セレッソ大阪(住吉大社・登録有形文化財「神館」で本を読もう!) (神館)、宮寄河野権禰宜以下参加。

二二日

二二日

御田講・蓬萊講講元 濱田孝氏、J A 大阪市代表理事組合 長 田中聡氏(公財)住吉名勝保存会理事長 高野伸生氏、市戎大國講講元 北正彰氏、津守家当主 津守亮太氏以下参列、住吉踊保存後援会奉仕。表千家同門会大阪支部七〇周年記念茶会、加藤権宮司出席。子供の読書推進プロジェクト 大阪市立図書館×住吉大社×セレッソ大阪(住吉大社・登録有形文化財「神館」で本を読もう!) (神館)、宮寄河野権禰宜以下参加。

二二日

二二日

御田講・蓬萊講講元 濱田孝氏、J A 大阪市代表理事組合 長 田中聡氏(公財)住吉名勝保存会理事長 高野伸生氏、市戎大國講講元 北正彰氏、津守家当主 津守亮太氏以下参列、住吉踊保存後援会奉仕。表千家同門会大阪支部七〇周年記念茶会、加藤権宮司出席。子供の読書推進プロジェクト 大阪市立図書館×住吉大社×セレッソ大阪(住吉大社・登録有形文化財「神館」で本を読もう!) (神館)、宮寄河野権禰宜以下参加。

二二日

二二日

御田講・蓬萊講講元 濱田孝氏、J A 大阪市代表理事組合 長 田中聡氏(公財)住吉名勝保存会理事長 高野伸生氏、市戎大國講講元 北正彰氏、津守家当主 津守亮太氏以下参列、住吉踊保存後援会奉仕。表千家同門会大阪支部七〇周年記念茶会、加藤権宮司出席。子供の読書推進プロジェクト 大阪市立図書館×住吉大社×セレッソ大阪(住吉大社・登録有形文化財「神館」で本を読もう!) (神館)、宮寄河野権禰宜以下参加。

二二日

二二日

御田講・蓬萊講講元 濱田孝氏、J A 大阪市代表理事組合 長 田中聡氏(公財)住吉名勝保存会理事長 高野伸生氏、市戎大國講講元 北正彰氏、津守家当主 津守亮太氏以下参列、住吉踊保存後援会奉仕。表千家同門会大阪支部七〇周年記念茶会、加藤権宮司出席。子供の読書推進プロジェクト 大阪市立図書館×住吉大社×セレッソ大阪(住吉大社・登録有形文化財「神館」で本を読もう!) (神館)、宮寄河野権禰宜以下参加。

二二日

二二日

御田講・蓬萊講講元 濱田孝氏、J A 大阪市代表理事組合 長 田中聡氏(公財)住吉名勝保存会理事長 高野伸生氏、市戎大國講講元 北正彰氏、津守家当主 津守亮太氏以下参列、住吉踊保存後援会奉仕。表千家同門会大阪支部七〇周年記念茶会、加藤権宮司出席。子供の読書推進プロジェクト 大阪市立図書館×住吉大社×セレッソ大阪(住吉大社・登録有形文化財「神館」で本を読もう!) (神館)、宮寄河野権禰宜以下参加。

二二日

二二日

御田講・蓬萊講講元 濱田孝氏、J A 大阪市代表理事組合 長 田中聡氏(公財)住吉名勝保存会理事長 高野伸生氏、市戎大國講講元 北正彰氏、津守家当主 津守亮太氏以下参列、住吉踊保存後援会奉仕。表千家同門会大阪支部七〇周年記念茶会、加藤権宮司出席。子供の読書推進プロジェクト 大阪市立図書館×住吉大社×セレッソ大阪(住吉大社・登録有形文化財「神館」で本を読もう!) (神館)、宮寄河野権禰宜以下参加。

二二日

二二日

御田講・蓬萊講講元 濱田孝氏、J A 大阪市代表理事組合 長 田中聡氏(公財)住吉名勝保存会理事長 高野伸生氏、市戎大國講講元 北正彰氏、津守家当主 津守亮太氏以下参列、住吉踊保存後援会奉仕。表千家同門会大阪支部七〇周年記念茶会、加藤権宮司出席。子供の読書推進プロジェクト 大阪市立図書館×住吉大社×セレッソ大阪(住吉大社・登録有形文化財「神館」で本を読もう!) (神館)、宮寄河野権禰宜以下参加。

二二日

二二日

御田講・蓬萊講講元 濱田孝氏、J A 大阪市代表理事組合 長 田中聡氏(公財)住吉名勝保存会理事長 高野伸生氏、市戎大國講講元 北正彰氏、津守家当主 津守亮太氏以下参列、住吉踊保存後援会奉仕。表千家同門会大阪支部七〇周年記念茶会、加藤権宮司出席。子供の読書推進プロジェクト 大阪市立図書館×住吉大社×セレッソ大阪(住吉大社・登録有形文化財「神館」で本を読もう!) (神館)、宮寄河野権禰宜以下参加。

二二日

二二日

御田講・蓬萊講講元 濱田孝氏、J A 大阪市代表理事組合 長 田中聡氏(公財)住吉名勝保存会理事長 高野伸生氏、市戎大國講講元 北正彰氏、津守家当主 津守亮太氏以下参列、住吉踊保存後援会奉仕。表千家同門会大阪支部七〇周年記念茶会、加藤権宮司出席。子供の読書推進プロジェクト 大阪市立図書館×住吉大社×セレッソ大阪(住吉大社・登録有形文化財「神館」で本を読もう!) (神館)、宮寄河野権禰宜以下参加。

亮会公演会「雅亮会」四〇年、浪速の舞樂の浪花節「協賛、東野囀託奏樂、神武・庄司權禰宜觀覽。南海電気鉄道(株)二〇二四年懇親会、神武宮司・加藤 岡權宮司出席、高階權宜隨行。

二六日 岩手県神社庁庁長 坂本広行氏以下三〇名参拝。宿院頓宮崇敬会役員会及常任総代会、岡權宮司出席。伝統文化未來共創プロジェクト会議、高階權宜・武田 河野權禰宜出席。神道青年会臨時総会、福山 奥野權禰宜出席。熱田神宮学院研修交流会、万力權宜・附柴權禰宜出席。関西テレビ放送「newsランナー」取材。

二七日 熱田神宮学院参拝。

二八日 浅沢社月次祭、高階權宜奉仕。徳野秀油絵遺作展「燈台を描く」高階權宜・小山手權禰宜觀覽。授与所等工事計画打合せ、造宮顧問 種村強氏、加藤權宮司以下出席。初詣警備會議、神武宮司以下出席。(株)カメラのキタムラ写真教室境内使用。

二九日 大阪市立茨田中学校校外学習境内使用。

三〇日 定例清掃。

十二月

一日 朔日祭、神武宮司以下奉仕。東京都港区乃木神社權禰宜 井戸睦氏 出向研修受入(令和八年一月三〇日迄)。YouTube「大阪に一番詳しい不動産屋」取材。

二日 墨江大社算額顕彰碑建立除幕式、奉納者(学)順天学園理事長 渡辺孝藏氏、神武宮司・二代目福田理軒 小寺裕氏・(株)金剛組会長 多田俊彦氏以下参列。住吉大社セミナー「和算のたのしみ」墨江大社算額顕彰碑に寄せて」二代目福田理軒 小寺裕氏講演。館友会大阪府支部懇親会、加藤權宮司・武田 小山手 古館權禰宜出席。近畿地区中堅神職研修会(大阪 滝沢 中川 西角權禰宜参加(六日迄)。近鉄ユーチューブ映像、境内撮影。

三日 住吉警察署歳末特別警戒部隊発隊式境内使用、加藤權宮司以下参加。プライダル文化振興協会万博結婚式の事に付挨拶、岡權宮司出張。

四日 大阪市立安立小学校校外学習境内使用。

五日 卯之日祭、岡權宮司以下奉仕。四天王寺樟蔭忌舞樂、東野囀託奏樂。

六日 初辰祭、岡權宮司以下奉仕。

七日 御神酒講正月献酒打合せ、加藤權宮司以下出席。大阪国学院スクーリング、祭式助教 岡權宮司助勢(翌日迄)。BS団会議、西角權禰宜出席。住吉大社前郵便局境内清掃奉仕。南海電鉄・大阪メトロ共催ハイキング「熊野街道を巡って住吉大社へ」催行。

八日 大阪国学院スクーリング、裸鍊成助教 万力權宜助勢。

九日 北海道小樽市住吉神社宮司 星野昭雄氏以下参拝。京山幸枝若重要無形文化財保持者(人間国宝)認定祝賀会、加藤權宮司・中野權宜・小出權禰宜出席。奈良シニア大学講座、小出權禰宜講師。夜間参拝、Asim二〇二四約二五〇名参拝。ベイクム「週刊Bayニュース」取材。

一〇日 市戎大国社月次祭、川畑權宜以下奉仕。堺市立三国丘中学校職場体験学習三名受入(翌日迄)。

一日 産経新聞大阪本社(献詠依頼)小出 神武權禰宜訪問。住吉公園歴史探望編集會議、小出權禰宜出席。すみ博実行委員会会合、武田 小山手權禰宜出席。

二日 神社庁第九支部役員会、岡權宮司・倉智權禰宜出席。

三日 大海神社月次祭、小出權禰宜奉仕。港住吉神社氏子総代会会合、神武宮司・加藤權宮司・名村權禰宜出席。レッドハリケーンズ大阪必勝祈願ジャパンラグビーリーグワン、ラグビー部長 根本浩二氏以下八〇名参拝。

四日 御田講会合、神武宮司以下出席。(公財)日本相撲協会手数入奉納打合せ、富士ケ根・阿武松親方来社、神武宮司以下面談。大阪国学院スクーリング、祭式助教 岡權宮司(翌日迄)、裸鍊成助教 万力權宜助勢。

五日 十五日祭、神武宮司以下奉仕。山口県下関市住吉神社例大祭、宮寄權禰宜参列。正月奉仕説明会。BS堺第一団境内使用。社報「住吉さん」第四三三号発行。

六日 住吉警察署歳末防犯運動、一日署長 角田夏実氏(バリ五輪女子柔道金メダリスト)以下来社、神楽女二名参加、NHK、朝日放送、読売新聞取材。住吉祭(興丁勸奨)ポスター制作感謝状贈呈式(大阪府立港南造形高等学校)、安立神輿会会長 中野紀久雄氏・小出權禰宜以下訪問。

八日 十八日会(長田神社)神武宮司出席、高階權宜隨行。大阪高齢者大学校講座、小出權禰宜講師。なにわ七幸会會議、滝沢 西角權禰宜出席。

二〇日 海上交通安全祈願祭、加藤權宮司以下奉仕。

二五日 神道青年会次期会長「杭全神社權禰宜」藤江寛司氏来社。アサヒ飲料(株)飲料奉納。

二六日 煤払式、加藤權宮司以下奉仕。自衛消防訓練、自衛消防隊・神武宮司以下参加、朝日放送、関西テレビ放送取材。本殿清掃。

二八日 浅沢社月次祭、高階權宜奉仕。うどんや風一夜葉本舗代表取締役 末廣伸二氏来社奉賛。皇學館大学准教授 村上政俊氏来社。

三一日 師走大祓式、除夜祭、神武宮司以下奉仕。宮司以下参籠、年越。

令和七年(二〇二五)

一月

- 一 日 若水の儀、元旦・歳旦祭、神武宮司以下奉仕。初詣(※正月三ヶ日参拝約一四五万人)。初詣特別分課実施。正月本殿祈禱預かり祈禱開始。新年神樂各奉仕。警備本部開設。りそな銀行グループ、南海ビルサービス協力会社等、各境内清掃奉仕(三日迄)。
- 二 日 琴古流尺八美風会奉納演奏。
- 三 日 元始祭、神武宮司以下奉仕。
- 四 日 踏歌神事、岡権宮司以下奉仕。敷布講講元 石田和正氏以下新年参拝。
- 五 日 故谷本早苗氏(八坂神社大絵所大和法眼二世)、岡権宮司平問。
- 六 日 初詣関係挨拶、加藤権宮司・武田権禰宜各訪問。本日より通常閉門。
- 七 日 白馬神事・昭和天皇祭還拝、加藤権宮司以下奉仕。神馬白雪号・川上正太郎氏奉仕、神馬講講員・崇敬者参列。神稜講新年参拝。
- 八 日 四本宮並船玉社檜皮屋根防火放水(二〇日迄)。
- 九 日 市戎大國社宵宮祭(宵えびす)、岡権宮司以下奉仕、市戎大國講講元北正彰氏・夏越女保存会会長 長田淳子氏・住吉御崎講 塩田亮氏・住吉踊保存後援会 田中玲子氏・福娘一名、各参列奉仕(翌日迄)。折榊奉焚行事、御崎講奉仕(翌日迄)。YouTube「原田龍二の「人間TV」・毎日放送「よんちゃんTV(内コーナー「ぶら参道」)」境内撮影。
- 一〇日 初卯祭、岡権宮司以下奉仕。市戎大國社例祭(本えびす)、加藤権宮司以下奉仕、前日同断。みずほ銀行住吉支店鏡開き、当社所蔵住吉神像(市指定文化財)奉斎。住吉警察署「一〇番の日」境内使用。
- 二 日 初辰祭、岡権宮司以下奉仕。港住吉神社新年祭、加藤権宮司以下奉仕、神武宮司参列。
- 二 日 若宮八幡宮例祭(湯立神事)、加藤権宮司以下奉仕、宮原幸夫氏(佐備神社宮司・関西雅楽松風会)以下神樂奉仕。不審庵初釜式、加藤権宮司出席。
- 三 日 御結鎮神事、神武宮司以下奉仕、奉射神事弓十番(住吉大社御結鎮祭大の式・大阪府弓道連盟会長 砂口勝紀氏以下奉仕。大海神社月次祭、小出権禰宜奉仕。宿院頓宮新年祭、岡権宮司以下奉仕、神武宮司参列。南大阪歩け歩け協同行事境内使用。
- 四 日 四本宮並船玉社防火放水実施(翌日迄)。
- 五 日 十五日祭・新年献詠祭(産経新聞社後援・末廣堂協賛)、

- 一六日 天機奉伺(宮中参内)、仙洞御所 秋篠宮邸 新年御機嫌伺、神武宮司参向、高階禰宜随行。
- 一八日 十八日会(春日大社)神武宮司出席、高階禰宜随行。半床庵初釜式、岡権宮司出席。熱田神宮宝物館新春特別展 吉兆の神獣―神話から現代まで―特別講演会、小出権禰宜講師。読売新聞大阪本社わいず倶楽部境内清掃奉仕。朝日放送「やすとも」のいたって真剣です」取材撮影。
- 一九日 海上交通安全祈願祭、岡権宮司以下奉仕。大阪船主会海上安全祈願祭、神武宮司以下奉仕、大阪船主会会長 安藤美和子氏・近畿海事広報協会会長 星野公彦氏・近畿運輸局局長 池田哲郎氏・大阪海上保安監部次長 片山敬義氏以下参列。伝統文化未来共創プロジェクト会議、武田 河野権禰宜出席。
- 二二日 住吉自衛消防協議会新年互例会、高階禰宜出席。堺市博物館出展の中神輿、本日帰社。
- 二三日 日本相撲協会大阪場所事務所、武田 河野権禰宜訪問(開設御祝)。
- 二四日 神宮新年参拝・神宮司庁、神武宮司参拝、高階禰宜随行。神社庁第九支部役員会、岡権宮司・倉智権禰宜出席。住吉踊保存後援会支部長幹事会、滝沢権禰宜以下出席。
- 二七日 今主社例祭、高階禰宜以下奉仕。文化財防火デー消防訓練、宮司以下参加、住吉消防署、住吉大社自衛消防隊協力。住吉祭神輿実行委員会、神輿会役員・住吉 住之江区役所職員・神武宮司・加藤 岡権宮司以下出席。防災設備更新工事打合せ、大阪府文化財保護課来社。改正「大阪市路上喫煙の防止に関する条例」施行に付、境内全域禁煙とす。
- 二八日 浅沢社月次祭、高階禰宜奉仕。産経新聞大阪本社(献詠御礼)小出神武権禰宜訪問。堺ライオンズクラブ第一定例会、古布 小出権禰宜講師。東京トラベルパートナーズ(株)、スマートフォンアプリ「旅介TV」境内撮影(生中継)。
- 二九日 大阪天満宮、小出権禰宜訪問(住吉セミナリ講師依頼)。大相撲春場所において豊昇龍関が横綱に昇進、祝意を表す(大阪場所当社境内寄居の立浪部屋所属)。
- 三〇日 桂米朝生誕百年・没後十周年顕彰碑建立除幕式(船玉社前)桂米朝一門・うどんや風一夜葉本舗奉納、高井名誉宮司・神武宮司・桂米團治以下桂米朝一門・うどんや風一夜葉本舗・粉浜商店街振興組合参列。大阪府古書籍商業協同

組合同創立百周年記念式典、加藤権宮司・小出権禰宜出席。
定例清掃。職員会議。

二月

- 一日 朔日祭、神武宮司以下奉仕。立聞社例祭、坂野権禰宜以下奉仕。海士子社例祭、逸見権禰宜以下奉仕。海と日本プロジェクトin大阪シンポジウム、岡権宮司開会挨拶。
二日 節分祭、神武宮司以下奉仕。港住吉神社節分祭、加藤権宮司以下奉仕。追儺歩射式、弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家小笠原清忠氏以下小笠原同門会奉仕。
三日 卯之日祭、加藤権宮司以下奉仕。十日会、神武宮司出席（坐摩神社）高階禰宜随行。住之江区北島高砂神社節分祭、神楽女二名助勢。
四日 初辰祭、岡権宮司以下奉仕。住吉税務署確定申告広報協力、神武宮司・成「揮毫・インタビュ」、神楽女スマートフォン納税体験参加。島津家第三二代当主 故島津修久氏お別れの会、加藤権宮司弔問。
五日 セレッソ大阪必勝祈願、代表取締役社長 森島寛晃氏以下参拝、関西テレビ放送、スポーツニッポン新聞社他取材。衛士社社員研修旅行第一班（和歌山県田辺市熊野本宮大社方面）中野禰宜以下引率（翌日迄）。大阪市立住吉第一中学校職場体験学習（〇名受人（翌日迄）。
六日 世界遺産登録記念フォーラム「佐渡島の金山」と大阪、岡権宮司出席。
八日 市戎大國社月次祭、加藤権宮司以下奉仕。住吉大社セミナ「住吉開帳『和歌三神』のこと」女教訓所の中で「京都女子大学名誉教授 八木意知男氏講演。宮司以下参籠。
一日 紀元祭・檀原神宮遙拝、神武宮司以下奉仕。谷本蘇牛翁作品奉納奉告祭（八坂神社大給所大和法眼二世 故谷本早苗氏八八点奉納）、谷本新氏他参列。阪堺沿線御朱印めぐり会議、滝沢権禰宜出席。
二日 祈年祭献魚献種依頼、小出 庄司 西角権禰宜各所訪問。日本相撲協会大阪場所御免祝、岡権宮司以下出席。
三日 大海神社月次祭、小出権禰宜奉仕。衛士社社員研修旅行第二班、高階禰宜以下引率（翌日迄）。NANTO堺交流会、加藤権宮司講師。
四日 熱田神宮宝物館新春特別展、貸出中の当社所蔵品返却。
五日 十五日祭、神武宮司以下奉仕。
六日 住吉武道館武道祭、加藤権宮司出席。
七日 シニア自然大学校講座、小出権禰宜講師。神社庁祭式講師打合会、岡権宮司出席。立浪部屋境内寄宿（三月三〇日迄）。
八日 十八日会（西宮神社）神武宮司出席、高階禰宜随行。神道青年会教養研修会、附柴権禰宜参加。

一九日 日本ハウスクリーニング協会境内清掃奉仕。
二〇日 海上交通安全祈願祭、加藤権宮司以下奉仕。土俵祭 降神之儀、岡権宮司以下奉仕、立浪部屋参列。大神神社宮司井上卓朗氏来社。

二一日 全国一の宮会役員会・近畿地区区会合同打合会（吉祥殿）、神武宮司・加藤 岡権宮司出席。

二二日 宮司以下参籠。西岩部屋、港住吉神社寄宿（三月二八日迄）。
二三日 天長祭、神武宮司以下奉仕。

二六日 日本相撲協会維持会員の集い、神武宮司・岡権宮司出席。同力士会、加藤権宮司・武田 小山手権禰宜訪問。故竹中弘忠氏お別れの会、神武宮司弔問、万力禰宜随行。奈良シニア大学檀原校講座、小出権禰宜講師。すみよし反橋能実行委員会、小出権禰宜出席。院友会大阪支部役員会、庄司権禰宜出席。

二七日 大阪市立住吉幼稚園・墨江幼稚園、わんぱく相撲体験八〇名参加、立浪部屋協力、NHK・読売新聞・サンケイスポーツ・スポーツニッポン等取材。神社庁第九支部研修旅行（滋賀県大津市建部大社方面）、倉智 滝沢権禰宜参加。

二八日 浅沢社月次祭、高階禰宜奉仕。神社庁神宮大麻暦頒布終了奉告祭・定例協議会、岡権宮司出席。定例清掃。職員会議。

三月

- 一日 朔日祭、神武宮司以下奉仕。日本相撲協会 手数入奉納、理事長 八角信芳氏・担当部長 伊勢ノ海準人氏・横綱 豊昇龍関・太刀持 平戸海関・露弘明生関・行司 木村庄之助氏・呼出 克之氏以下奉仕。読売新聞・朝日新聞・日本経済新聞・東京中日新聞・NHK・朝日放送・テレビ大阪・共同通信社・時事通信社・デイリースポーツ・スポーツ報知・スポーツニッポン・日刊スポーツ・サンケイスポーツ・ベースボールマガジン社・週刊ポスト等各取材。
二日 宿院頓宮崇敬会参拝旅行（京都府宮津市籠神社方面）古布 中川権禰宜引率（翌日迄）。大阪市立住吉幼稚園創立一〇〇周年記念式典並祝賀会、岡権宮司出席。神S協理事會、中野禰宜・山下権禰宜出席。
三日 立浪部屋稽古観覧、責任役員 小島康秀氏他二〇名参加。神社庁例祭習礼並祭式打合会、岡権宮司出席。淀商業高等学校（二名）、クラーク記念国際高等学校（二名）職場体験学習受入（翌日迄）。
四日 住吉大社責任役員会・常任総代会、神武宮司以下出席。神道青年会理事會、附柴 西角権禰宜出席。
五日 侍者社例祭、中野禰宜以下奉仕。常任総代 南尚氏退任挨拶、神武宮司・高階禰宜訪問。住吉消防記念日表彰式、岡権宮司出席。

六日 壇使、小出権禰宜・小山手権禰宜・酒巻社務員奉仕(奈良県橿原市 雲名梯川保神社・畝火山口神社)。立浪部屋激励会、神武宮司・岡権宮司・高階禰宜出席。

八日 諏訪大社氏子青年会会長 小林良司氏他 九名参拝。故寺田孝重氏葬祭、神武宮司弔問、小出権禰宜随行。住吉連合地域活動協議会地域教育部会講座、小出権禰宜講師。文化庁補助事業「地域の文化財等の普及啓発のためのまち歩きとシンポジウム」、小出権禰宜講師。BS団会議、西角権禰宜出席。

九日 近藤泰光氏刀剣奉納(短刀 銘肥前國忠吉)。

一〇日 市戎大國社月次祭、川畑禰宜以下奉仕。住吉大社セミナー「描かれた和歌三神」細見美術館主任学芸員 福井麻純氏講演。英真学園高等学校(一名、香ヶ丘リベルテ高等学校)(二名 職場体験学習受入(翌日迄)。日本相撲協会八角理事長 挨拶、岡権宮司訪問。神社庁例祭、岡権宮司奉仕。

二日 卯之日祭、岡権宮司以下奉仕。近隣住宅火災発生につき自衛消防隊出動するも当社に影響なく鎮火。

二日 初辰祭、加藤権宮司以下奉仕。十日会、神武宮司出席(枚岡神社)。

三日 大海神社月次祭、小出権禰宜奉仕。常任総代 南尚氏来社。夜間参拝、ジョーンズラングラーサル(株)約一〇〇名参拝。防災設備更新工事消防検査、住吉消防署来社。

五日 十五日祭、神武宮司以下奉仕。

六日 本殿清掃。宮司以下参籠。特殊神饌調製(一財)住吉村常盤会創立一〇〇周年式典、小出権禰宜出席。

七日 神種頒賜祭、赤松種苗(株)神種奉納、御田講員参列。

一八日 祈年祭(大祭)、神武宮司以下奉仕。責任役員 小島康秀氏・常任総代 高橋知史氏以下総代・崇敬者・御田講員 濱田孝氏・大阪市農業協同組合 文野和彦氏・赤松種苗(株)以下参列。文楽寿式三番叟 桐竹勘十郎氏(人間国宝)奉納。

一八日 十八日会(生田神社)神武宮司出席、高階禰宜随行。松苗神社献詠俳句選者会、古賀しづる氏・森田純一郎氏・小杉伸一路氏選考。大阪市立東粉浜小学校卒業式、武田権禰宜代参。大阪市立南港光小学校卒業式、小山手権禰宜出席。

一九日 兵庫県明石市住吉神社宮司 故西海英延氏葬祭、神武宮司弔問、武田権禰宜随行。

二〇日 皇靈殿遥拜式、神武宮司以下奉仕。海上交通安全祈願祭、岡権宮司以下奉仕。招魂社春季例祭、加藤権宮司以下奉仕。神馬塚彼岸参拝、神武宮司・加藤権宮司参拝、倉智権禰宜随行。千度講参拝(旧中在家東之町・安立連合・東粉浜連合各地区)。東粉浜千度講、加藤権宮司・小出神武権禰宜参列。

二二日 オリックス・パファアローズ必勝祈願、球団社長 湊通夫氏・

GM 福良淳一氏・監督 岸田護氏以下参拝。万博奉式協力関係先(公財)日本ブライダル文化振興協会・大國魂神社他挨拶、岡権宮司出張(翌日迄)。

二二日 住吉祭神輿実行委員会、住吉祭後援会会長 中野喜久雄氏以下役員・関係者、神武宮司以下出席。

二三日 土俵祭 昇神之儀、岡権宮司以下奉仕、立浪部屋参列。日本相撲協会大阪場所千秋楽幕内優勝力士表彰式にて大の里関に「住吉大社相撲道奨励賞」授与(本年より毎年実施)、神武宮司出向、武田 小山手権禰宜随行。立浪部屋千秋楽祝会、神武宮司・岡権宮司出席。西岩部屋千秋楽祝会、加藤権宮司・名村権禰宜出席。

二四日 摂社 志賀社本殿、摂社 若宮八幡宮本殿、御文庫、大阪府指定文化財有形文化財「建造物」登録。神道青年会理事会、附柴 西角権禰宜出席。広島県神社庁比婆支部支部長 佐々木奉文氏他二七名参拝。伝統文化未来共創プロジェクト関係者会議、高階禰宜・武田 河野権禰宜出席。中堅神職研修(神宮道場)山下権禰宜参加(二八日迄)。

二五日 立浪部屋御礼挨拶、親方 立浪耐治氏・横綱 豊昇龍智勝関・明生力関来社。草薙会近畿支部役員会、万力禰宜出席。防災設備更新工事視察、文化庁文化財調査官 石田陽氏は、大阪府・市文化財保護課来社。北海道小樽市住吉神社宮司 星野昭雄氏以下参拝。日本曆学会総会(茨城県水戸市常磐神社)、小出古館権禰宜出席。新規採用者研修(三〇日迄)。

二六日 住吉踊・御祝講獅子参拝旅行(滋賀県大津市建部大社方面)、関係者一〇〇名参加、滝沢 附柴 星野 小山手 古館権禰宜引率。翼廊北授与所建築工事着工令和七年六月下旬迄。

二七日 浅沢社月次祭、高階禰宜奉仕。神社庁臨時協議会、岡権宮司出席。

二八日 皇學館大学元学長 清水潔氏叙勲祝賀会、加藤権宮司出席。皇學館大学准教授 村上政俊氏結婚披露宴、神武宮司出席。

二九日 宿院頓宮桜祭、岡権宮司以下奉仕、神武宮司参列。万博神輿打合会、小出権禰宜以下、住吉区・住之江区職員、神輿会関係者出席。

三〇日 三一日 定例清掃。職員会議。

四月

一日 朔日祭、神武宮司以下奉仕。辞令発令・権禰宜 小出英詞を禰宜に、吉田義洋を神人に、川上奈々愛・芝菜摘美・田原亜季を神楽女見習に各任ずる。奉職奉告祭。刀剣調査及手入、元熱田神宮文化研究員 福井敬彦氏来社。

三日 松苗神事・神武天皇祭遥拜 神武宮司以下奉仕。岸の姫松講講元 櫻坂修平氏以下講員(公財)住吉名勝保存会理

事長 高野伸生氏以下崇敬者、献詠俳句選者 森田純一郎氏
小杉伸一路氏、入選者参列。天位 苗木植う昭和百年こと
ほぎて「山田夏子氏・地位」歌人の心を今に苗木植う「岸本
悦子氏・人位」貝寄風や巫女の挿頭の松光る「奥野千草氏。
常任総代委嘱、(株)タイゾー常勤監査役 南安子氏、神武宮司・
高階禰宜訪問。住吉区副区長 西畑彰人氏他来社。すみよ
し反橋能実行委員会、小出禰宜出席。

卯之日祭、加藤権宮司以下奉仕。

四日 初辰祭、加藤権宮司以下奉仕。兵庫県加西市北条住吉神
社春季例大祭助祭、岡権宮司奉仕。

六日 正印殿祭、加藤権宮司以下奉仕、神武宮司参列。御祓講
獅子、さくらカーニバル出演。BS一三三団上進式参拝。
最上流和算家佐久間續奉納算額(復元)、二代目福田理軒
小寺裕氏奉納(神楽殿ロビーに掲示)。市戎大國講参拝旅
行(石川県白山市白山比咩神社方面)、川畑禰宜・西角奥
野権禰宜引率(翌日迄)。大阪市立東粉浜小学校入学式、
岡権宮司出席。大阪市立南港光小学校入学式、小山手権
禰宜出席。中堅神職研修(神宮道場)、山下権禰宜参加(一一
日迄)。

八日 近畿の式内社を顕彰する会役員会、神武宮司出席、高階
禰宜随行。

九日 種貸社例祭、中野禰宜以下奉仕。五社春季例祭、高階禰
宜以下奉仕。総代委嘱、SUMINOE(株)代表取締役社
長 永田鉄平氏、神武宮司・高階禰宜訪問。新入社員安全
衛生教育研修会、吉田神人出席。住吉公園歴史探望編集
会議、小出禰宜出席。

一〇日 港住吉神社楠玉稲荷社例祭、加藤権宮司以下奉仕。市戎
大國社月次祭、川畑禰宜以下奉仕。四天王寺副管長 南谷
恵敬氏・執事長 塚原昭應氏来社(就任挨拶)。大阪市立住
吉幼稚園入園式、岡権宮司出席。Stay 大阪関西国際
芸術祭二〇二五、岡権宮司・宮寄 河野権禰宜参加。

二〇二五年日本国際博覧会開幕に際し、天皇皇后両陛下
大阪行幸啓に伴う幣饌料御下賜奉納奉告祭(臨時中祭)、神
武宮司参仕。万博催事実行打合せ会、住之江区役所、安
立神輿会中野光典氏、住吉踊・御祓講獅子 田中玲子氏以下、
小出禰宜・神武武田 河野権禰宜出席。

二二日 大海神社月次祭、小出禰宜奉仕。住吉警察署、交通安全
運動境内使用。大阪市此花区夢洲にて二〇二五日本国際
博覧会【略称 大阪・関西万博】開会(一〇月一三日迄)。

二四日 鉾社例祭、逸見権禰宜以下奉仕。イタリア共和国副首相
アントニオ・タイヤーニ氏以下二〇名参拝。住吉大社セ

ミナー「日本刀の精神性」―神話・伝説と神社所蔵刀剣を中
心に―元熱田神宮文化研究員 福井款彦氏講演。神道青
年会研修会、附柴権禰宜参加。

一五日祭、神武宮司以下奉仕。おいとしほし社春季例祭、
高階禰宜以下奉仕。神祇講定例参拝。

一六日 神社庁第九支部役員会、岡権宮司・倉智 滝沢 進藤 西角
権禰宜出席。どんぐり保育園、御田レンゲあそび。

一七日 大阪市立住吉幼稚園・こぐま保育園、御田レンゲあそび。
一八日 会(賀茂御祖神社)神武宮司出席、高階禰宜随行。
明治神宮権宮司 江馬潤一郎氏以下四名参拝。就実大学人
文学部表現文化学科研修旅行八八名参拝。(株)コーニッシュ
代表取締役 今村聖三氏来社奉賛。文化財保護研修会、倉
智権禰宜出席。御田植神事奴行事協力依頼、(旬)芋中本店
代表取締役 神並健次郎氏、大阪供奴保存会会長 出野進氏・
小出禰宜訪問。聖愛クロス保育園、御田レンゲあそび。

一九日 「日本の結婚式」と題し万博会場に於て神前結婚式を斎行
(大阪・関西万博会場内「ポップアップステージ南」、岡
権宮司、高階禰宜以下出席(詳細特集記事)。大阪市自然
史博物館学芸員 長谷川匡弘氏御田外来植物駆除作業。
海上交通安全祈願祭、加藤権宮司以下奉仕。島津忠久公
誕生記念祭、岡権宮司以下奉仕、神武宮司以下参列。す
みよし博覧会「Lengde すみ博」境内催行。

二〇日 神宮浅沢沼補植、岡権宮司以下奉仕。堺市博物館学芸員
宇野千代子氏・北林千明氏来社。

二二日 宿院頓宮會計監査会、岡権宮司出席。
二三日 サントリーホールディングス(株)新浪剛史会長・鳥井信宏
社長就任式、神武宮司出席、高階禰宜随行。万博 港まっ
づくりDAY 打合せ、加藤権宮司・万力禰宜出席。
二四日 モンゴル友好協会総会、岡権宮司・宮寄 小山手権禰宜出席。
伝統文化未来共創プロジェクト会議、高階禰宜・河野権
禰宜出席。

二五日 大阪市立美術館「日本国宝展」開会式、神武宮司出席、小
出禰宜随行。

二七日 港住吉神社氏子総代会・夏祭実行委員会、加藤権宮司・
浅村権禰宜出席。

二八日 浅沢社月次祭、高階禰宜奉仕。宮司以下参籠。神社庁役
員会、岡権宮司出席。一万人のお宮奉仕団境内清掃奉仕。
大阪市立墨江小学校校外学習写生会境内使用。

二九日 昭和祭(中祭)、神武宮司以下奉仕。御田植神事打合せ、
神武宮司以下出席。住吉踊保存後援会支部長会、山下権
禰宜以下出席。

三〇日 定例清掃。祭儀部会議。職員会議。全国弓道大会前日直会、
弓馬術礼法小笠原教場一門・大阪府弓道連盟有志・神武
宮司以下出席。宿院頓宮會計報告会、岡権宮司以下出席。

住吉さんと太閤さん 第十回

——慶長元年の夢想と住吉明神の威猛——

就実大学講師 竹内 洪介

住吉大社と豊臣秀吉——どちらも古くから大阪で愛され、親しみを込めてそれぞれ「住吉さん」「太閤さん」と呼ばれた存在です。ここでは、江戸時代に流布した秀吉の伝記的資料を中心に、そんな「住吉さんと太閤さん」の意外なかかわりを探ってみたいと思います。

この連載も十回目。半年に一回の社報に載るコラムですから、もう五年続いていることになります。毎回四、五ページのけっこうな紙幅を取るこの連載、ご迷惑をおかけしながらもまだ続けさせていただけるようで（と、勝手にそう思っているのですが）、どうか引き続きおつきあいください。

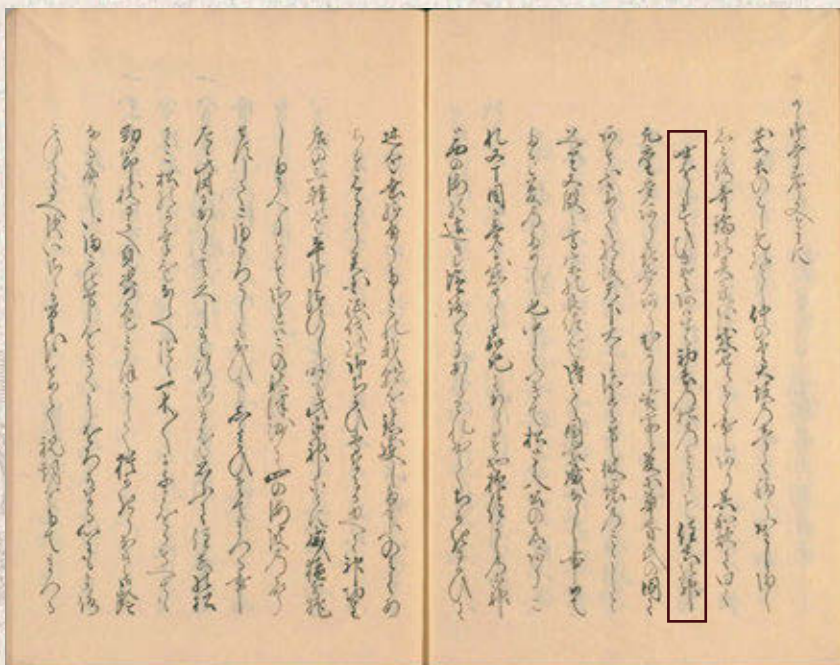
さて、みなさんは夢をよくご覧になりますか？ 私はほとんど見ません（正確には、見た記憶がありません）が、たまに夢を見ると、見たい夢の中の自分自身は忙しそうにしています。夢の中くらいゆつくりしたいのですが、どういうわけかそうはさせてくれ

ません。時折豪華な料理が出てくることもあり、目覚めた後はなぜ堪能しなかったのか、激しい後悔の念に襲われます。そんな現実の私を尻目に、夢の中の私はいつも料理をほったらかして何かと忙しくしています。

世をしれとひきぞあはする初春のまつ
の緑も住よしの神

なにも私を秀吉になぞらえたかったわけではないのですが、かつての後継者秀次を亡くした翌年で、天災が多発した改元の時期ということもあり、秀吉も相当忙しかっ

たと見えます。慶長元年（一五九六）十一月、
 ちょうど文禄から改元されたばかりの時期
 に、秀吉は夢を見て右のような歌を詠みま
 した（当時はこれを「夢想歌」と呼びました）。鶴崎
 裕雄氏によって紹介されたこの夢想歌は、
 細川家四代の歴史をつづった『綿考輯録』（安
 永七年（一七七八）成立）の一節、初代幽斎（玄旨）
 の事績をつづった記事にあらわれます（引用
 にあたり、句読点を新たに付し旧字を新字に改めるなど、
 適宜私に修正を加えたところがあります）。



→『綿考輯録』第五冊（国立国会図書館蔵）。囲み部分が問題の和歌です。

十一月、大閤御夢に和歌を得給ふ。幽
 斎君是を御祝し被成候。御歌序文とも
 に、慶長のはじめの年、仲のふゆ、大
 坂の亭（大坂城のこと…竹内注）にうつりお
 はしましし比、奇瑞の異夢を感せらる
 る事あり。其和歌にいはく、

世をしれとひきそあはする初春の
 まつの緑も住よしの神

凡霊夢あり、喜夢あり。むかし、黄帝
 夢に華胥氏の国にあそぶ。さめての後
 天下大に治れる事、彼境のことしとい
 へり。又殷高宗の良佐を得て、国家盛
 なりし事、めでたき夢のためし也。中
 につきて松は十八公の名あり、これ又
 丁固の夢に感ぜし嘉兆にあらずや。そ
 もそも住吉の御神は、西の海の遠き塩
 ちよりあらはれ出て、ちかきさかひに
 迹を垂給へり、ただこの我朝を鎮護し
 たまふのみにあらず。はるかに異国征
 伐の御ちかひ専なるがゆへに、神功皇
 後の三韓を平け給ひし時も、此御神こ
 とに威猛を施したまへりとぞ。されば
 この秋津洲、四の海、波の声せずして、
 こまもろこしもなびきたかひたてま
 つる事、ただ此時にあり。其久しき行
 さきを思ふに、住吉の松に、こ松のか
 けをならべつつ、一木々々に、千代を
 数へても、勁節枝さかへ、貞姿色みさ
 ほにして、猶かぎりなき御齡なるべし。

いまこの事をきくぞ、をろかなる心にもよろこびにたへず、いささか筆をそめて祝詞をたてまつるといふ事しか也。
法印玄旨上

住よしの神の恵もあらはれて

君か八千よを松のことのは

大幅に省略しますが、記事の要点は以下の通りです。十一月、秀吉が大坂城で「奇瑞の霊夢」を見て和歌を得、幽斎がそれを寿いだ。それが「世をしれと」の歌である。中国の故事でも、黄帝や殷の高宗、呉の丁固の例があるように、およそ霊夢とは吉夢を指すのである。そもそも住吉の御神は、はるか遠い西からこの堺に鎮座して日本を

鎮護するだけのものではない。異国征伐にも験があるものであるために、神功皇后が三韓を征伐した時も、住吉明神がことさらにその「威猛」を発揮したものである。であるからこの国の四海も浪一つ立たずに中国もなびき従うのは、今この時のことなのである。この天下の行く末は住吉の松を幾重にならべても、なお数え切れぬほど長いものである。こうしたことは幽斎にも響くものであって、こういう歌を献上したてまつった。「住吉の…(住吉明神の神の恵みもいまあらわれて、我が君(秀吉)の長き世を松の言葉に寄せて寿いでいることであるよ)」ならばいい、幽斎が歌で述べた「住吉明神の恵み」とはいいなんでしょう。



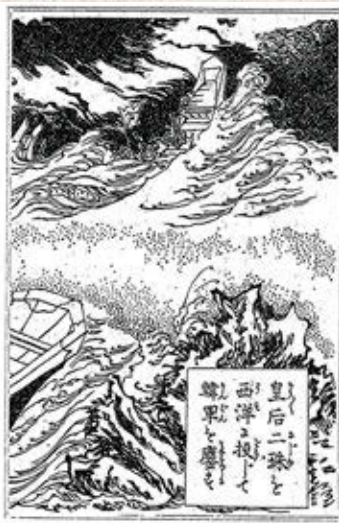
→住吉公園の松。かつて住吉大社付近一帯は海岸線に位置しており、そこには松が群生していました。その景勝は古くから称えられ、「住吉の松」という枕詞になって和歌などで詠まれています。



↑住吉大社の御結鎮神事（お弓始め）。住吉大社HPより。

神功皇后三韓征伐の時の「威猛」というのがそれに該当するのですが、現代ではあまりなじみがあるようには思われません。これをふまえて住吉大社HPにある「祭神の功德」というコーナーを見てみましょう。そこには住吉大神の「功德」が「祓の神」「航海安全の神」「和歌の神」「農耕・産業の神」「弓の神」「相撲の神」の六項目に分けて紹介されています。そのうち「弓の神」の項目にはこのようにあります。

神功皇后の新羅遠征（三韓遠征）神話に由来します。神功皇后は住吉大神のお力



→「神功皇后三韓退治図会」（明治19年刊）掲載「皇后二珠を西洋に投じて韓軍を撃つ」（国立国会図書館蔵）

をいただき、御自らも弓鉾をとり、大いに国威を発揚せられたとあります。また、神功皇后は住吉大神の鎮齋に際し、その警護のために土師弓部十六人を当社におかれたといえます。その故事にちなんで、邪気退散・天下泰平を祈願し、御結鎮神事（お弓始め）が新春に行われます。

当該の記事では三韓征伐における神功皇后の弓鉾による活躍に端を発する「弓の神」としての側面を特に取り上げています。もちろん住吉大社の「弓の神」としての側面は重視すべきですが、そもそも第一回の本記事でも紹介したように、住吉大社において神功皇后が祀られる由来はこの三韓征伐において住吉大明神の神託を受けたとされているからです。

こと江戸時代以前に関して言えば、むしろこの故事のほうが重視されようにも思われ、対外的意識の高まりとともに住吉の神による「加護」が重要視されてきました。結論を先取りして言うならば、この幽斎の「恵み」がそれにあたるということになるのですが、今ではあまりなじみのないことです。すから、一つ別の例をあげましょう。

秀吉の出兵からさかのぼること約五十年前の頃に発表された能に「白楽天」というものがあります。『新版 能・狂言事典』によって概要を示します。

中国の詩人・白楽天（白居易）は日本の知力を試せという勅令を受け、松浦渚までやってきた。そこで小舟に乗って釣りをしている漁翁と漁夫に出会う。すると漁翁は楽天の名前・渡来を目的を当て、楽天が目の前景色を見ながら詩を作ると、直ちに和歌に翻訳する。老漁は日本では蛙や鶯までもが歌を詠む

も不思議のときうり時中家か變あらんとするや其前表ありて候ま
やんばあるべからふ巴三銀ふり此頃ふての候ふなれて新だしくの之
を假れず候今なで候ふ假れて候み深きうまふ都羅の節ふ南する所
なるべし今よりして候い候ある性しきとありども候い候あるとあらん
や候て心の底ひより木管と知るなりといへり時中家なりといひつへ
も巴三銀ふり候よりハ受命權へも最て上らず唯我獨り愛ひて又ハ使國を
舉げきとを最下と共ふ評議をすはうたてかりける事なりけり

○住吉明神變漁翁示詩歌
御國の帝城より西にふ雲つて和州といへる處あり其處ふ馬場河といへ
る大河ありて此水源ハ韓羅國の白山といへる處より出たるが所時中家の
御み候ふ水の出る處とあるべからず此處に御み候ふとすめバ和州の民之
を候ふ帝城ふ持出て驚さけるが此頃御み候ふとすめバ和州の民之
ろく御をうたひつゝ出奉る其詩ふ曰く

東海有別名曰使
香蓮影宮西原
勝敗若爭元者多
どうたひつて出奉る千枝これを御て大い候し直地を候時をうた
ふ漁翁者五人を候へ目今うたひし詩のよも返等々作れる處ありあ
るべし例者よりして候へ候けると事分明ふまうすべしと尋ね問ふ漁
翁かそれからまうすふ我等目今うたひし詩の如く我輩の作
れる所ありははす馬場河の邊ふ魚と釣て世とをわたり一個の魚は出た
ひ出したる時にて候いへるふ此詩とを思ふしろくうたひ得たる者
ふれ魚の腹と下直ふとさんといひける由も我もくどうたひなれたる
時ふてはなり候いまた魚を釣事此よりなす事ふて金の數より十
倍の得ものといふす御計どいふと巴開て千枝魚候ていふやうなれば候
等最より馬場河の邊りへ我を釣ひ行候時て作りたる御計ふ建すべしとま
うすよき帝城の千勇士と叫れたる千枝のいひ出たるとなれば漁翁者の候

百廿一

→「神功皇后三韓退治図会」（明治19年刊）における「住吉明神變漁翁示詩歌」の章（国立国会図書館蔵）。住吉明神が漁翁に姿を変えて和歌を詠むのは、神功皇后の伝説がもとになっています。

のだといい、舞樂の遊びをして見せようと言うと消えていった。老漁は、実は住吉明神の仮の姿であり、やがて気高い老体の神姿で現れ、舞を見せた後に多くの日本の神々と共に神風を起し、楽天を中国へと吹き戻すのだった。

同事典において松本雍氏は「いちおう脇能の典型によっているが、国の平安をただ祝福するのではなくて、現実に入入者を追い払うという筋に書かれているのがきわめて異例である」と評します。この「異例」さに関して、応永の外寇を背景にみる興味深い研究が発表されました（天野文雄「世阿弥がいた場所」）。

応永の外寇とは、室町中期の応永二六年（二四一九）、倭寇に悩まされた李氏朝鮮が、その根拠地とみなして対馬を襲撃した事件です。天野氏は「白楽天」制作の背景に応永の外寇という国家の危機を想定する久米邦武（大正五年）・高野辰之（昭和二十二年）の説がかつて提起されていながら、いつのまにか等閑視されるようになってしまい、あらゆる全集や辞書にも触れられなくなったことを指摘し、改めてこの説の妥当性を検証しています。そしてその結論として、この久米・高野両氏の所説が、「白楽天」の内容や、南北朝・室町初期のいわゆる能の大成期における將軍周辺の御用役者の環境（將軍との親密な関係）などを勘案すると、あらためて見直

されるべき所説であること、仮にこの指摘が当たっているとすると、「白楽天」の成立は応永の外寇があった応永二六年（一四一九）後半ころと考えてよく、かの有名な世阿弥が作者である可能性も出てくることを示しています。

そしてそのうえで、「白楽天」の趣向および詞章、内容を検討し、「たんに和歌の徳を述べることをねらい（作意）」とした作品ではなく、そこには強烈な対外意識（この場合は対中国意識）が一貫していることが知られる」と結論付けています。

ここにおける論証の過程で注目されるのは、対外意識の対象となっているのが「唐」であり、それが応永の外寇を「大唐蜂起（だいてうほうぎ）」「唐人襲来」と呼んだ京都の公武の認識と一致することが示されていることです。くりかえしますが天野氏説の中で「白楽天」の制作環境は將軍周辺のことと目されています。この説に基づくならば、この当時の政府に

参考文献

- ・『新版 能・狂言事典』（平凡社、二〇一一年）
- ・天野文雄「世阿弥がいた場所」（ペリかん社、二〇〇七年）
- ・久米邦武「謡曲白楽天は傑作なり——雄大なる対外思想と応永の外寇——」（『能楽』第十四巻、一九一六年）
- ・高野辰之『日本演劇史』第一巻（東京堂、一九四七年）
- ・土田将雄「細川幽斎伝記の編纂について——『綿考輯録』の成立まで——」（『上智大学国文学論集』第五号、一九七一年）
- ・鶴崎裕雄・福島理子・広瀬隆・中川謙「シンポジウム「夢」との対話——連歌・文学・心理学の視点から——」（『国際理解』第四十二号、二〇一六年）
- ・鶴崎裕雄「天下人の連歌・和歌——信長・秀吉・家康——」（『文化科学研究』第三十号、二〇一九年）

付記

本稿は、JSPS科学研究費（22K20041）の助成を受けたものです。

おいても、住吉の神は「対外意識」の中でまっさきに想起される存在だったといえるでしょう。こうした意識を基盤に考えていくならば、その時代と地続きにある秀吉の時代においても、こと「明」（中国）や「朝鮮」と戦う上でまっさきに想起されるべきは住吉の神のご加護であったはずです。それが秀吉の夢想歌においても顕著に表れ、「住よしの神」が「世を治める」ことを秀吉に命じ、それに対して幽斎が「住よしの神の恵み」が「顕れている」と寿いだ、ということに符合することになるものと思われるのです。

以上、今回は慶長元年に詠まれた秀吉の夢想連歌を取り上げ、対外意識という側面で住吉の神について考察しました。次回も変わらず秀吉の史料を取り上げます。今度は古文書。いったい秀吉はどんな文書を住吉大社に送ったのでしょうか。十一回目以降も、どうぞよろしくお願いいたします。

奉納品紹介

令和6年12月2日

学校法人順天学園様

奉納

東京都北区の学校法人順天学園より算額顕彰碑が奉納されました。

順天学園は中高一貫教育の私立学校で、その歴史は古く天保五年（1834）、和算家の大家、福田理軒が大坂にて創立した順天堂塾に起源があり、自然の摂理にしたがって真理を探究する「順天求合」の精神のもと、多くの門人を輩出され、明治四年（1871）には大阪から東京へ移転しました。令和六年は順天学園創立一九〇年の佳節に当たり、令和八年度をもって学校法人北里研究所と法人合併の予定です。

創立者の福田理軒は、兄の福田金塘こと福田復とともに、大坂で和算の福田派を結成し、算術を中心とした学問を講じて、数多くの門人を育てた人物です。

ちなみに、当時の和算家は、学問の成就や感謝を祈願して、神社仏閣などに和算の問題や解法を記載して絵馬や額を神社などに奉納する風習がありました。

福田派も数多くの算額を奉納していましたが、この住吉大社にも安政二年（1855）に多数の算額を奉納しています。同時に『墨江大社奉額図解』という書籍を出版して、実際に奉納された算額に掲げた和算の難問の各解法を解説しています。これによって、福田派が住吉大社に学問の上達を祈願して算額を奉納しつつ、世間に和算を知らしめた様子がうかがわれます。

今回、創立者の福田理軒とも御縁の深いこの住吉大社に、算額の例題を掲げた顕彰碑を、世界最古の企業として知られる株式会社金剛組の施工により建立いただきました。（建立場所は37頁地図参照）

令和7年4月9日、二代目福田理軒小寺裕氏奉納

次の頁に和算の寄稿をいただきました小寺裕氏より復元算額が奉納されました。

神楽殿ロビーに掲示してありますので、ご参拝の折にどうぞご覧ください。



和算ワールドへようこそ

小寺 裕

現在我々が学んでいる数学は、明治以後ヨーロッパから入ってきたものですが、江戸時代にも立派な数学が存在していました。江戸時代の数学を「和算」といいます。江戸時代の算数なんて、ソロバンで足し算、引き算程度と思っての方も多かもしれませんね。本稿では和算の内容を紹介し、江戸の人たちは算術をどのように考え、どれくらいのレベルにまで達していたのかを鑑賞していただきます。数学と歴史が混在した不思議なテーマパーク〈和算ワールド〉の開園です。

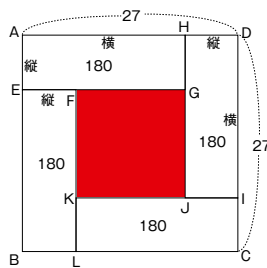


図1

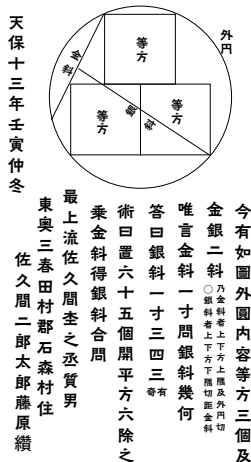


図2

1 縦と横の和が27寸の長方形がある。

その面積が180坪であるとき、縦と横の長さはいくらか。

ここでいう1坪は一辺が1寸の正方形の面積をさします。1坪=1平方寸です。

図1で長方形AEGHの面積は180で、横AHと縦AEの和が27です。

この長方形4つを図のように正方形に並べると、

赤い正方形の面積=正方形ABCD-4×長方形AEGH=27²-4×180=9

となるので、その一辺の長さは3です。

従って、縦=(27-3)÷2=12寸、横=27-12=15寸と求まります。

中学生ならば、縦=x、横=27-xとして $x(27-x)=180$ という二次方程式を解きますが、和算ではこれを図形的に解いたことになります。

このようにして二次方程式を解く術を帯縦開平法と言います。

2 忠臣蔵四十七士の中に村松秀直・高直親子がいました。秀直の養父村松茂清是和算家で『算俎』(1663年)という本を書き、そこで円周率を3.1415926と8桁まで正しく示しました。これは円に内接する正32768角形の周長を計算するもので、わが国で初めて円周率の計算方法を示したものです。和算と忠臣蔵を結ぶ隠れたエピソードである。この後多くの和算家が円周率に挑戦しています。例えば松永良弼は『方円算経』(1739年)で

$$\frac{\pi}{3} = 1 + \frac{1^2}{4 \cdot 6} + \frac{1^2 \cdot 3^2}{4 \cdot 6 \cdot 8 \cdot 10} + \frac{1^2 \cdot 3^2 \cdot 5^2}{4 \cdot 6 \cdot 8 \cdot 10 \cdot 12 \cdot 14} + \dots$$

3 日本には古くから絵馬を奉納する習慣がありましたが、江戸時代には和算の問題を絵馬にして奉納していました。この絵馬のことを算額と言います。和算の問題が解けたことを神仏に感謝し、ますます数学ができますように、という願いをこめて奉納したのでしょう。住吉大社にも算額が数面ありましたが、現存していません。そこでその中の一面を筆者が復元して奉納しました。天保13年(1842)に三春藩(現福島県三春町)の佐久間纘が奉納した算額です。(図2)

〈和算ワールド〉は如何でしたか？和算を通して数学への興味が増すことを願いつつ、閉園いたします。

令和七年

短歌

住吉大社 新年献詠祭

(一月十五日)

後援…産経新聞社

協賛…末廣堂

選者…安田 純生、佐沢 邦子、香川 ヒサ

天位

学校の予定を子から聞き出して父は稲刈りの日を定めけり

長野県 小林 恒夫

(評) 現代の親子関係が如実に現れている。親といえども勝手に何でも決めて良い訳ではない。

地位

凧上げの糸繰り出して初春の風と引き合ふ父と子の声

兵庫県 山本 みさよ

(評) 今年は乙巳の年、何とか日本は平和裡に明けた。この平和が続くよう念じている作者。

人位

骨密度低下し小さくなっていく母の手を取る飛び去らぬよう

大阪府 前園 優子

(評) 結句表現で思い切り母上への日頃の感謝などを伝えておられる。元気でいてね、と。

佳作

胞衣破り仔牛よろめき立ち上がる藁に湯気立つ春の朝冷え

山口県 森元 輝彦

わが屋号「すみよし」と染めし玄関の暖簾に月の光射しくる

兵庫県 荒浜 悦子

夜勤明け一人住吉参りおり森に響けり玉砂利の音

大阪府 市場 さと枝

紅梅の一輪ひらく小正月マスクはずしてひとときの幸

大阪府 東尾 喜代美

農事終え五右衛門風呂に浸かる夕指を拭うとよもぎの香り

千葉県 山本 明

深々と海に一礼初漁へ兄の蟹船港いでゆく

大阪府 向井 靖雄

初空へ放つ白球伸びゆきて感触忘れぬ間にまた打つ

東京都 遠藤 玲奈

境内を巡る神馬の力強き蹄の音に吾も勇み立つ

岐阜県 石田 賢吾

植木屋は巢に居る鳩に睨まれた言ひて剪定止めて降りて来

山梨県 渡辺 良臣

笑い皺今年も一緒に増やそうと貴方と屠蘇を交わす元旦

茨城県 松本 康恵

(総評) 今年は身近な人々への愛を感じさせる作品が多く、神への敬虔さを歌っておられる作品も多かった。(佐沢 邦子)

令和七年

俳句

住吉大社 松苗神事

(四月三日) 献詠俳句

協賛…末廣堂
選者…古賀しぐれ、森田純一郎、
小杉伸一路

天位

苗木植う昭和百年ことほぎて

大阪府吹田市 山田 夏子

(評) 昭和の御代が通算すると百年になった。植えられた松の苗木は、もっと永く永く生きて行くことだろう。まことにめでたい俳句である。

地位

歌人の心を今に苗木植う

兵庫県西脇市 岸本 悦子

(評) 松苗の神事は江戸時代に始められたと聞く。以来俳人達により脈々と伝えられて来た。この様な歴史は稀有のこと。これからも大切に伝えて行きたい。

人位

貝寄風や巫女の挿頭の松光る

大阪府大阪市中央区 奥野 千草

(評) 貝寄風は陰暦二月二十日頃に吹く季節風であり、岸边に貝が吹き寄せられるのでこの名がある。住吉大神は海の神様であり松の木に降りて来られたと伝わる。いかにも住吉らしい句である。

佳作

苗木植う地震にも耐ゆる水の星

兵庫県 島崎 すずらん

苗木植う大地のゆるぶ日なりけり

大阪府 藤岡 満

苗木植ふ千年さきの星語る

兵庫県 小柴 智子

復興へ弛まぬ歩み苗木植う

兵庫県 長谷 元子

停戦の足音確と苗木植う

兵庫県 末永 拓男

春日燦横綱神の土に立つ

大阪府 須谷 友美子

地虫出づ新横綱の土俵入り

大阪府 中野 美栄子

苗木植う早も扶桑の佇まひ

奈良県 高塚 康文

歴史秘む社の大樹風光る

兵庫県 藤澤 みか子

米朝の墨痕一碑松の花

大阪府 吉永 佳子

(総評)

俳句には有季定型という厳然たる作句の掟があります。季語(季題)を用いずに詠んだり、五・七・五の定型を崩したりすると、その作品は俳句という文学ではなく、短詩に分類されます。この掟を守りながら詠むところにスリルと醍醐味と満足感が有るのです。掟を大切にしましょう。

(小杉伸一路)

短歌と俳句の献詠募集

【要領】 作品は一人様ごとに短歌2首あるいは俳句2句まで
詠題は自由、神前にふさわしい自作の未発表の作品に限る

【書式】 楷書(ふりがな)で、郵便番号・住所・電話番号・氏名(ふりがな)

【注意】 判読不能の作品や、神前に相応しくない内容、要領によらない
投稿は選考の対象から除外することがあります

【締切】 新年献詠祭(短歌) 11月末日 松苗神事(俳句) 2月末日
観月祭(短歌・俳句) 7月末日 ※当日消印有効

【表彰】 選考後に通知、祭典招待、当日に神前奉納および賞状贈呈

【宛先】 〒558-0045 大阪市住吉区住吉2丁目9番89号 住吉大社献詠係

授与品だより

叶うさぎ

住吉大社のご鎮座が卯年、卯月、卯日であることから、「うさぎ」は住吉大神の神使、「卯の花」は神花とされています。

この「叶うさぎ」御守を身に付けることで、願いが叶い幸せが訪れるよう祈願しております。



心願成就

すみか 澄海鈴守

「清めの音色 水琴鈴」
清らかな波の響きのような
澄みきった水琴鈴の音色が、
運気を整え幸運を引き寄せます。



開運招福

釣人守護

大漁祈願

釣人守

表層・中層・底層のルアーや、
餌木を模した釣り人守護の御守



大漁祈願



海上安全大漁御守

本格的なルアーを使用した
大漁祈願・釣り人守護の御守

海の神さま

住吉さまの釣り人守

猫の手しゃもじ

人招き・お金招きにご利益ある
招福猫の手型しゃもじ

家内安全
商売繁盛



運氣上昇



猫カード

48体（満願）の招福猫が描かれた
商売発達・家内安全のカード型御守



初辰宝船

龍頭宝船に
招福猫が乗った
縁起のいい土人形

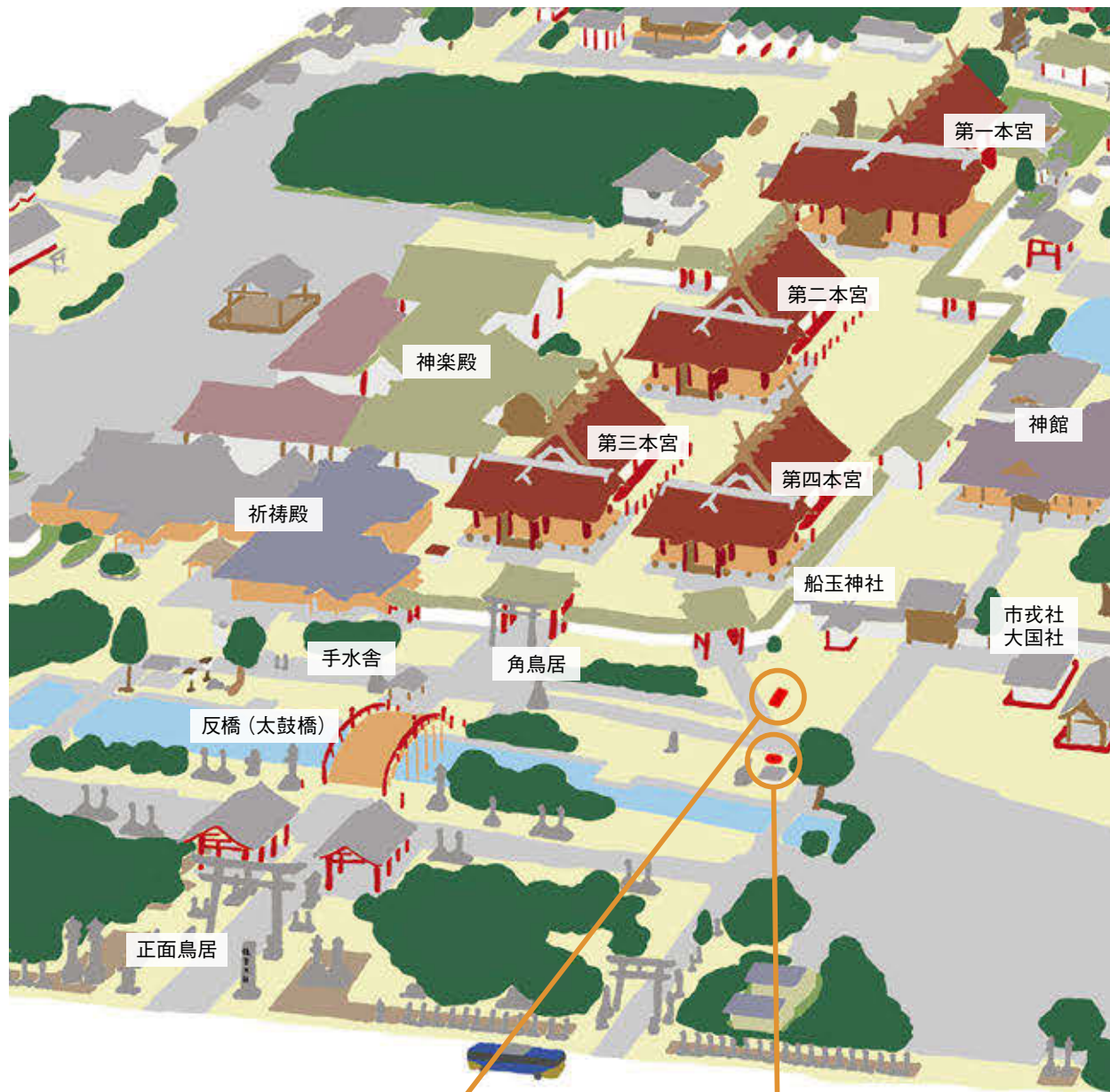
開運招福

はつたつさん

楠珪社なんくんの授与品

顕彰碑建立場所のご案内

15頁・31頁にて報告しました顕彰碑の建立場所です。ご参拝の折にはぜひ足をお運びください。



桂米朝生誕百年・没後十年顕彰碑

令和7年1月30日

桂米朝一門・うどんや風一夜薬本舗様 奉納

墨江大社算額顕彰碑

令和6年12月2日

学校法人順天学園理事長 渡辺孝藏様 奉納

令和七年（二〇二五） 下半期の祭事暦

7月7日（月）	10時	星宮例祭	末杜星宮
14日（月）	11時	港住吉神社宵宮祭	末杜港住吉神社
15日（火）	11時	港住吉神社例祭	末杜港住吉神社
21日（祝）	10時	斯主社例祭	末杜斯主社
27日（日）	15時40分	汐汲行事	大阪市南港沖
30日（水）	10時	神興洗禊	第一本宮
31日（木）	14時	神興洗禊	住吉公園
8月1日（金）	9時	神興洗禊	住吉大社・宿院頓宮
2日（土）	10時	神興洗禊	宿院頓宮
7日（木）	10時	神興洗禊	第一本宮
9月1日（月）	10時	神興洗禊	第一本宮
9日（火）	10時	神興洗禊	第一本宮
17日（水）	11時	神興洗禊	第一本宮
19日（金）	10時	神興洗禊	第一本宮
23日（祝）	10時	神興洗禊	第一本宮
10月5日（日）	10時	神興洗禊	第一本宮
6日（月）	18時	神興洗禊	第一本宮
9日（木）	10時	神興洗禊	第一本宮
13日（祝）	10時	神興洗禊	第一本宮
15日（水）	11時	神興洗禊	第一本宮
16日（木）	10時	神興洗禊	第一本宮
17日（金）	10時	神興洗禊	第一本宮
19日（土）	10時	神興洗禊	第一本宮
23日（祝）	10時	神興洗禊	第一本宮
11月3日（祝）	10時	神興洗禊	第一本宮
21日（火）	10時	神興洗禊	第一本宮
19日（日）	10時	神興洗禊	第一本宮
11日（火）	10時	神興洗禊	第一本宮
23日（祝）	10時	神興洗禊	第一本宮
12月26日（金）	15時	神興洗禊	第一本宮
31日（水）	17時	神興洗禊	第一本宮

住吉名物

さつま焼

元祖 さつま焼（登録商標）

さつま焼はその昔
住吉の物産であつたさつま芋を
形どつたなにわの味、
昔からの銘菓であります。
十勝小豆を精製した
淡泊な味のこしあんを、
秘伝の皮で包み、
心を込めて、一本一本竹串に刺して
焼き上げております。
幾星霜の老舗の味を、ご賞味ください。
摂津一之宮 住吉大社御用達御神饌調達処
御菓子司 株式会社 東廣堂

本店 大阪市住吉区東粉浜三丁目一ノ二一四
TEL 06(6677)4028
06(6677)8130
FAX 06(6677)3019

毎週火曜定休日

第44号の表紙

令和七年五月十日（二〇二五年大阪・関西万博「大阪の祭」）EXPO
「二〇二五 春の陣」に住吉大社が参加。EXPOアリーナにおいて当
社の大神輿が輿丁により奉舞。同時に、舞台上では住吉踊・御祓講獅子
が上演した。

継続は、発達なり。



令和7年

8/3
9/8
10/2
11/7
12/1

初辰まいり



住吉大社